

☑ 話すこと ☑ 書くこと

☑ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☑ パフォーマンステストでの活用☑ 授業での活用
☑ 課外活動での活用

☑ 家庭学習での活用

実践の
ポイント

AIとALTとの相乗効果による英語発信力育成とAI活用における個別最適な学びへの転換

実証概要

<校数> 5校(高等学校:5校) <人数> 1,270名(高等学校:1,270名)
<学年> 高等学校:第2学年 <アプリ等> GELP(株式会社ベネッセコーポレーション)

<AI機能について> 生徒の興味関心やレベルに応じた英語4技能のコンテンツが豊富に準備されている。主に授業の帯活動や言語活動、家庭学習でAIとの対話練習やSpeakingとWriting添削機能を使用した。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

● AI英語との対話練習や添削機能を活用した指導

AIを相手にした即興の対話練習を導入し、そこで得た表現を土台として、自信を持って、ペアワークやALTとの実践的なコミュニケーションへと発展できた。また、AIアプリの機能を活用した音読練習や、スピーキング・ライティングにおける即時添削機能を取り入れ、生徒がAIからのフィードバックを次の活動へ反映させることができた。教師はAIによる個別学習と対人での実践をつなぐファシリテーションの役割を担った。

● 個別最適な学習指導

授業開始時や課題で、生徒の興味・関心やレベルに合ったメニューを生徒自身で選び、各自で取り組んだ。また、授業の中で、教師が選んだメニューを個々や友人と相談しながら自分のペースで進め、完了後に、ALTとのパフォーマンステストを受けた。これにより、自己の学習を調整しながら主体的に取り組む態度を育成することができた。



実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

① 児童生徒の英語力の変化

<GELPのレベルテストによる結果比較>
A2レベル相当以上の割合(6月→12月)

話すこと 45.4% → 55.4%

書くこと 31.0% → 39.9%

② 児童生徒の関心・意欲の変化

「AIを使った学習により、英語をもっと勉強したいと思った」と回答した生徒は65.3%(事後アンケートより)。

AIアプリの使用で、個々に学習を進めることもでき、生徒の英語学習への関心・意欲が高まった。

③ 教師の指導の変化

「言語活動の充実に向けて、AIは役立った」と回答した教師は71.4%(事後アンケートより)。

AIを使用することで、授業の言語活動に工夫ができ、活動の質も高まった。AIと教師の役割を活かした授業デザインを考えるようになった。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

● 研修会や公開授業の実施

リーダーは3回の研修を通じ、AIの効果的な活用について学び、授業や指導の改善へとつなげた。また、本県で取り組んでいる英語教育改善プロジェクトの会議にも参加し、生徒の英語発信力に向けたAI活用の視点を共有した。さらに、各校で公開授業を実施し、研究協議時に事業の詳細やAIの効果的な活用について、モデル校以外の教員と意見交換をし、AIの効果的な活用について普及することができた。また今後、本事業の取組や言語活動の充実に向けた指導の実践・成果をまとめ、クラウド上(Google Drive等)で公開する予定である。



事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

AIの活用により、生徒は個別に即時フィードバックを受け取れるようになり、自身の課題を客観的に把握した学習が可能となり、結果として英語力の向上へとつながっている。また、AIを相手にした対話練習やライティングの添削は、生徒の学習意欲を大きく引き出している。特に、AIから受けたアドバイスを、すぐにALTとの対話で自信を持って実践できたことは成果の1つと考えている。AIを通じて「個別最適な学び」が実現したことも、意欲向上を後押しする重要な要因となっている。今後は、多種多様なAIツールの得意・不得意を見極め、指導目的に応じて適切に活用する方法を継続して研究していく。さらに、こうした県内の先進的な活用事例を広く共有することで、教育現場全体のさらなる発展を目指す。